

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏名	M.S	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学年	2年	派遣国	イギリス
派遣大学	ド・モントフォート大学		
プログラム名	Pre-sessional Course		
期間	2023年 7月 14日～ 2023年 9月 10日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

平日、午前10時から行われる対面授業と授業毎に課されるオンライン授業を並行して行っていくハイブリッド形式のプログラムでした。先生との個人面談やその他チュートリアルが行われる日を除き、正午あたりで対面授業は終了することも多かったです。昼食後はオンライン授業を受講しながら、翌日の授業準備（ディスカッション準備など）を進める必要がありました。授業は近年、話題となっている様々な社会問題等がテーマとなっており、オンライン授業時にまずそれらについて自身で考え、対面授業時にディスカッションを通してクラスメイトや先生と意見を共有していくという流れでした。ディスカッションはクラス内でいくつかの少人数グループに分かれて行うことが主でしたが、度々、クラス全員でディスカッションを行う場面もありました。プログラム開始当初は十数人～数十人の前で自分の意見などを英語で述べられるほどの自信がなく、不安も感じていましたが、先生をはじめ、多くのクラスメイトがお互いを気にかけて、英語を使って助け合うこともできていたので、すぐにそのような気持ちはなくなっていき、自身の考えを精一杯伝えることが出来るようになりました。そんな環境下で行われた授業において、特に印象に残ったものはSDGsのまちづくりに関する授業でした。これは私が横浜市立大学で勉強したいと考えていた分野にも共通する内容であったため、とても印象に残っています。音声による説明を聞き取る課題もあったのでリスニング力を伸ばしながら学習することが出来ました。自分が持つ知識を活用しつつ、関連用語が英語の場合、どのように表現されるのかということなどについても積極的に吸収していくことが出来ました。エッセーやプレゼンにも取り組みましたが、これらをより良くするための方法やコツを習得することができ、日本でも確実に役立てることが出来るだろうと感じています。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500字程度)

SDGsを軸とした社会問題についての授業から、それら分野の知識を幅広く得ることが出来たと感じています。自分は留学前よりSDGs、特に貧困問題に関心を寄せていました。授業内でも貧困というテーマを話し合う時間は多くありましたが、それらは日本であまり気づくことのなかった貧困の実情を知れる機会であったと感じています。同時に貧困問題に対する考えや取り組みなども多様なのだと知りました。また、日本ではあまり経験しないような出来事がイギリスやその他のいくつかの国には存在するのだということを様々な人とのディスカッションを通じ、感じたことで留学する前の自分が知り得なかった情報や新たな見解を持つことができました。これがこのプログラムで得られたものの中でも今後の自分にとってかけがえのない機会、知識や考えになるだろうと感じています。加えて、先生からいただいた、英語による障壁、直面した問題はなるべく英語によって解決されるべきだというアドバイスは自分の英語学習への姿勢に大きな影響を与えたと思います。ただ知識を得るだけではなく、その取り組み方や向き合い方においても同等程度の重要性があることを再認識することができました。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように(気持ちなどが)変化したか。(400字程度)

物事に臨む姿勢は以前よりも積極的に熱意を持ったものになったと思います。大学に入學して様々な授業を受けてきたことで、自身の興味ある分野への関心や取り組み意欲は確実に向上していましたが、今回の留学、授業を通し、その向上過程により一層の拍車がかかり、異なる角度からの成長を感じることも出来ました。社会が抱えるあらゆる問題について自分が持つ知識は多少なりともあり、それらは日本でも知り得ることが出来ました。しかし、このプログラムの授業ではそれらに加え、自分にできることは何か、私たちにできることは何かを考える機会と時間が圧倒的に多かったと思います。クラスメイトたちのいくつかの答えはとても実践的なものであり、またそれを受け、自身らが出来ることには想像以上に大きな可能性があるのではと感じるようになりました。この気づきを得たことで物事、問題への向き合い方をより際限なく、それでいてより積極性を持ったものにすることができました。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300字程度)

私はこのプログラムを通じて多種多様なことを生身で学び続けることが出来ました。今後の英語学習へはもちろんのこと、自分がこれからより熱心に励んでいきたいと考えている途上国に関連した勉強などにも今回の留学で得た経験と学びを積極的に生かしていけたらと思っています。異なる価値観、異なる考えへの深い理解は自身のこれからの学習において強く求められるため、今後はそれを可能にするほどの高いコミュニケーション能力、高い英語力を基盤としていくことを目標にし、そのうえで、今回のこのプログラムを機に培うことができた新たな視野をも生かして、多角的な学びと発見をし続けたいと考えています。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏名	S.K	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学年	2年	派遣国	イギリス
派遣大学	ド・モントフォート大学		
プログラム名	Pre-sessional Course		
期間	2023年 7月 13日～ 2023年 9月 10日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業では、SDGsに関連する内容を多く含む教科書に沿って、数人のグループに分かれ、ディスカッションを行った。また、クラスの他の生徒の質問に答える形で、教科書に載っていない情報を学び、文法を詳しく学ぶことができた。授業中の雰囲気や、先生のスタンスとして、授業中に質問をしやすかったため、疑問に思ったことをその場で解決することができた。日によって、教科書通りに進むこともあれば、教科書にはない話が続くこともあったため、教科書の中の疑問は授業後に聞かなければならないときもあった。

授業時間よりも予習にかかる時間が長かった。前日の予習を前提として授業が行われるため、しっかりと予習をしないと、授業についていくことができないとともに、参加している意味があまりなくなってしまう。ビデオを見ながら、教科書のタスクをこなす形式で、内容によってかかる時間がかなり変わった。答えがある問題は、ビデオ内で答えが示されるものと、授業で示されるものに分かれていたが、授業内で答えを知ることができないときがあった。内容によっては、その場で答えを考えることが難しいものもあるため、ディスカッションで話す自分の意見をある程度決めておくことが、予習において最も重要なことだった。

課題は、エッセイの課題が全体を通して3つと最終週に、リーディングテストとリスニング兼スピーキングテストがあった。エッセイ課題のために、書き方や言葉選び、全体の構造など、1から学ぶことができた。リーディングテストは、長い文章を読んで、小問に答えていく形式だった。練習が一度しかなかったとともに、練習の日程がかなり後ろに下がった。スピーキングテストは、3~4人でSDGsの一つのゴールに対する解決策について、ディスカッションをするというものだった。メンバーの話をしっかり聞かないと、話を進めることができないため、リスニングとスピーキングのどちらの力も必要なテストだった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500字程度)

英語で、アカデミックなエッセイを書く書き方を学ぶことができたのが、一番大きな学びだった。決まった形式や、文字数の割合など、新しい学びが本当に多かった部分だった。特に、参考文献の書き方は、本当に知らなかったためとても勉強になった。教科書の内容からは、SDGsに関連したイギリスの取り組みや問題など、新しい情報を得ることができた。また、テーマに沿って行ったディスカッションを通して、様々な国々のリアルな事情や、現状を知ることができて、このコースに参加した意味が大いにあったと思った。また、ディスカッションのなかで、自分とは真逆の考えをもっている人がいたり、違う視点から考えている人がいたりして、ディスカッションの大切さを感じたとともに、新しいアイデアを得ることができた。教科書の内容は、かなり難しい時が多かったとともに、レベルの高い単語が多く含まれていたため、新しい語彙を学ぶことができた。さらに、アカデミックなプレゼンテーションをするために必要なことを学んだ授業では、良いスライドの作り方や、プレゼンテーションをするときに気を付けることを学んだが、日本語で行うときにも利用できる内容だったので、参考にしていきたい。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400字程度)

授業を受ける前は、個人での学習の重要性をあまり感じていなかったが、授業前に自分の中で情報を整理し、自分の意見を固め、理解できない部分を知っておくことによって、授業をより効果的に受けることができることを知った。確実に復習ができるとともに、自分の回答の間違いに気づくことができ、ゆっくり考えて、自分の意見を組み立てられるため、予習をすることは良いことばかりだと思った。また、授業を受ける前は、自分のリスニングやスピーキングの能力が不安で、上手くコミュニケーションがとれないのではと思っていたが、相手の伝えたいことを受け取ろうという気持ちや、伝えたいという気持ちが大切だと感じた。自分の考えを伝えようと努力すると、相手も聞こうとしてくれるため、最初からできないかもしれないと消極的になるのではなく、強い意志をもって努力することが大切だと思った。聞くときも、聞こうとしている姿勢を見せることが大切だと考えた。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300字程度)

言語学習を怠らず、継続していくことで、今回の経験で得たものをなくさないようにするとともに、検定試験などに挑戦し、自分のスキルを向上させたい。また、日本にいる時にはあまり関わるできない国籍の人と話すことができ、様々な国について興味を持つことができたので、多くの国についての情報を吸収し、これからの学習や、自分の意見の構築に役立てていきたい。今回のプログラムで知り合った人達の多くが、私よりかなり年上だったが、同じ学生として、お互いに高めあうことができ、楽しく学ぶことができたため、私も、いくつになっても積極的に学ぶかつ、楽しんで学んでいきたいと思った。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏名	M.N	学部・学科	国際商学部国際商学科
学年	2年	派遣国	イギリス
派遣大学	ド・モントフォート大学		
プログラム名	Pre-sessional Course		
期間	2023年7月14日～2023年9月10日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業はオンラインとライブ授業を組み合わせたハイブリット授業の形式で行われる。午前中に大学に行ってライブ授業を受けて、午後にオンラインで次の日のライブ授業で扱う内容を予習する。

留学生が大学でアカデミックな論文を書いたり、英語でプレゼンテーションやディスカッションをしたりできるようになることを目的としたコースで、授業はすべてコースブックに沿って進められ、SDGに関係するトピックを扱った。

まず予習では、次の日に扱うレッスンをビデオを見ながら予習する。その後、そのレッスンのトピックに関する質問が与えられるので、それに対して100語程度で回答し、クラスのteamsに投稿する。クラスメイトの投稿を見ることができるので、それに対して同意できるか、どうしてそう思うのかを返信して理解を深める。最後に自分の予習を振り返って、できるようになったことや理解したこと、難しく感じた内容やわからなかったことをまとめてteamsに投稿する。これらはほかの生徒だけでなく先生も見ているので、授業がより効率的に進められます。

実際の授業は3～5人の小グループに分かれて行われる。コースブックの質問に対してディスカッションを行いグループで答えをまとめる。予習の段階ですでに自分の考えをまとめているのでスムーズに行うことができる。最後に代表者が発表したり、グループごとに自分のグループの考えをほかのグループに説明したりした。

私が参加したコースBはエッセイとプレゼンテーションで最終的な評価が行われ、コースCでは、エッセイ2つとディスカッション、リーディングテストで評価された。エッセイはパソコンで数日かけて家で参考文献を使いながら書くタイプのもので、その場で時間内に紙に書くタイプの2種類だった。どの形態のテストに関しても事前に練習する機会が設けられていた。また、週に1回ほど午後に自分の担当の先生と1対1で自分の提出した課題についてフィードバックをもらう時間があるので大きな不安はなく取り組むことができた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500字程度)

第一に、英語の能力を上達することができたと感じる。特にスピーキングスキルとリスニングスキルで感じられる。クラスメイトは全員英語のネイティブスピーカーではないので、伝わらないことがあったら、似た意味の単語や簡単な単語に置き換えたり、分かりやすい文法で話したりなど、工夫してお互いに助け合いながら会話を行った。

また、英語でのアカデミックな論文の書き方を学ぶことができた。導入部分や結論の書き方や段落の一番初めの書き出し、引用の使い方や参考文献の書き方、避けるべき表現や論文で好まれる動詞など、形式的なものから細かい語感などを教えてもらい実際にエッセイを書き実践した。自分が書いたエッセイに対してフィードバックをもらったのでさらに理解が深まった。プレゼンテーションやディスカッションに関しても、構成の立て方や話の進め方、よく使われる表現などを授業で学び、発表の際に実際に使うことで知っただけではなく、理解することができたと思う。

授業の内容はSDGに関係していたので、イギリスにおけるSDGに関連する問題について知ることができた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように(気持ちなどが)変化したか。(400字程度)

留学に行ったことでより一層思うようになったことは、自分は英語のスピーキングスキルとリスニングスキルをもっと向上させる必要がある、ということだ。同じクラスだったサウジアラビア人やトルコ人は授業の中で先生と冗談やジョークを言い合えるぐらい英語を話していた。それを見て私ももっと流ちょうにコミュニケーションを取れるようになるために、日本に帰国してからも英語を使う環境に積極的に飛び込んでいこうと思った。またクラスで授業を受ける中で衝撃を受けたことの一つに、日本の学生以外の授業内の質問の多さがある。多くの学生が授業を中断してまでも質問をする様子は日本では見られないので新鮮だった。教わったことをそのまま鵜呑みにするのではない姿勢は重要だと思ったので、わたしも授業の内容を批判的にとらえて考えようと考えを改めた。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300字程度)

今回の留学で得た、アカデミックな論文の書き方や、プレゼンテーションやディスカッションの効果的な伝え方などは、英語ではもちろん日本語で行うときにも役立つ内容ばかりだったので、今後大学で行う際に活かしていきたいと思う。また、英語を使う環境にも慣れていたのでこの感覚を忘れないうちに外国人と関われる環境を見つけて参加したいと考えている。そして英語の学習を定期的に続けて、スキルを高めていきたい。その一歩として後期ではAPEを履修する予定である。